

令和7年度 東京都立農芸高等学校（定時制課程） 学校経営報告

校長 吉野 剛文

今年度は、生徒の主体性や協働性を育む観点から農芸祭や学校行事などを実施した。本校は、健康な民主社会の担い手の育成を目指し、全教職員による組織的取組を推進してきた。今年度の取組を検証し、次年度の教育活動へ反映させていく。

I 今年度の取組について	
(I) 教育活動の具体的内容と結果	
① 学習指導	(ア) 学力向上 全ての教科でアクティブ・ラーニング型学習を実践し、考察力（情報収集力、考える力、説明力）などの能力向上を図った。また、新たに国語・数学・英語においては、習熟度別授業を開始して基礎学力の向上を図った。 各教科は、持続可能な社会づくりに向けた教育のために、SDGsを取り入れた授業を実施した。
	(イ) 学習支援 特別な支援を含めきめ細かく、手厚い指導を通じて学力の向上とともに、適正な学習姿勢を身に付けさせた。
	(ウ) 資格取得 一人一検定を目指し、チャレンジする心を醸成した。
	(エ) 学校農業クラブ活動 計画的にプロジェクト学習（達成型や開発型）に取り組みせ、課題研究発表会において成果を発表させた。
	(オ) 読書・言語活動の充実、コンクールへの参加 全教科・科目において、レポート作成や作文、授業内発表の機会を作り「読む」「聞く」「書く」等の言語能力をより一層充実させた。
	(カ) その他 GAPで求められる農業生産物の生産環境やHACCP等について学習させ、生徒に最新の知識や技術に触れさせ農業科への関心を高めさせた。
	今年度は、遅刻と授業規律を重点指導項目として取り組み、全教員の共通理解の下、年間を通して継続的に行き、よい結果に結びついている。しかし、登下校のマナーや身だしなみなど、今後も取り組むべき課題がある。
	(ア) 基本的な生活習慣の確立、規範意識（学校生活の規律を大切にす態度）、マナーの醸成に向けた、全教職員による年間と通じた継続または指導期間の指導（登校、授業、集会、HR、職員室入室時等） 自他を大切にす指導を計画的に行った。「いじめ総合対策【第3次】」に基づき、各学期に「いじめチェックシート」を生徒全員に実施し一人一人の状態を把握するとともに、生徒にSOSを出せる力を育んだ。
	(イ) 安全指導 基本的な生活習慣の確立は基より、登下校時のマナーをはじめとして、社会人として守るべき基本的なルールやマナー指導を全教職員が継続的に行き、良識ある行動ができる生徒を育成した。
	(ウ) 自他の生命・人権尊重の精神（他者を尊重し、思いやりの心を大切にす）に向けた指導 薬物乱用防止教室やセーフティ教室を通して、自他の生命や人権を尊重する指導を推進し、豊かな心を育み、いじめの起きない環境を整備した。
(エ) 危険を察知し回避する能力の育成に向けた安全指導と注意喚起（ホームルーム担任、教員他による） 防災活動や訓練を通じて、災害時の対応方法について学習させた。	
(オ) 学習環境の整備 生活指導部、学年、特別支援委員会との連携による生徒理解に基づく相談機能を充実させた。	
(カ) 情報発信への取組 生活指導部通信等を毎学期発行して、基本的な生活習慣の確立を図った。	
③ 進路指導	(ア) 4年間を見通した計画的なキャリア教育 4年間を見通した「学びの進路カレンダー」に基づき、組織的かつ計画的な進路指導体制を確立した。日常的な指導と段階的な進路支援を積み重ねることで、進学・就職を問わず、生徒一人一人の希望進路の実現を図った。
	(イ) 生徒の能力向上と生徒理解（興味・関心、能力・適性）に基づく進路指導 生徒が希望する進路を実現するため、5月よりエントリーシート指導、面接指導を始め、進路先に応じた具体的な指導を行った。
	(ウ) 進路試験対策 就職希望者には第一希望の職場に合格できるよう、学習指導・論文指導・礼節指導をはじめとする必要な指導を徹底した。
	(エ) ICT機器等を利用した履歴の記録 ICT機器を利用し学習、特別活動、資格取得等の記録を管理した。（データの一元化）
	(オ) 点検機能の充実 調査書や推薦書について、組織的な点検機能（学年⇒進路指導部⇒管理職）を充実させ、進路に関する関係書類等の転記ミスゼロとすることができた。次年度は、調査書の点検確認として教務部も行う必要がある。
	(ア) 学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、委員会活動、部活動への積極的参加

特別活動・部活動	<p>学校行事・部活動への取り組みをより充実させ、自他の個性を尊重し相互に高め合い磨き合う集団作りを重視し、農芸祭や校外学習等、質の高い学校行事を実現した。</p>
	<p>(イ)部活動の充実、競技力の向上により達成感、成就感の感じられる活動</p>
	<p>部活動を活発化するとともに、ホームページ、X、Instagramによる日々の情報発信を行った。</p>
	<p>(ウ)部長会、生徒会、委員会、農業クラブを活用して自主性、社会性、協調性の涵養</p> <p>生徒の活動状況が分かる掲示板を職員室前に設置した。</p>
⑤募集・広報	<p>(ア)ホームページ、X等、学校パンフレットの充実、学校説明会、個別相談会、体験入学、中学校、出前授業により、学校の積極的な情報発信の実施。安定した入学者選抜応募倍率。</p>
	<p>受検者確保のため、体験入学（1回）、個別相談（6回）を実施した。また、11月の新宿高校を会場とした都立高校合同説明会に参加した。教職員による中学校訪問（1人3校以上）やホームページとX、そして新たに導入されたInstagramによる情報発信に努めた。</p>
	<p>(イ)地場産業界・自治体との地域連携活動を推進</p>
	<p>杉並区等の地域産業界と連携し、本校の地域連携活動を活性化させた。また、生産物販売等を通じて、地域への貢献を図り、本校の地域連携活動への理解を高めた。</p>
	<p>(ウ)美化活動、掲示活動を充実</p> <p>学校全体で美化活動、掲示活動を充実させ、来校者、近隣住民への印象を高め、本校の日常からの教育活動への理解を深めた。</p>
⑥健康促進	<p>(ア)生徒状況の把握と病気・怪我への迅速な対応。外部講師・掲示を活用した保健教育</p>
	<p>スクールカウンセラー事業を有効に活用し、研修等を通じて学校全体の相談体制・カウンセリング能力のレベルアップを図った。</p>
	<p>(イ)清掃用具などの整備、清掃指導、美化活動、環境教育の充実により教育環境の整備と健康安全の構築</p>
	<p>「環境教育実践宣言校」として、省エネ、ゴミ減量等について生徒・教職員ともに高い意識をもって実践した。ゴミ集積場の管理も徹底されており、生徒が協力して分別・コンパクト化に取り組んでいる。粗大ゴミの処分が滞る傾向にあり、今後、計画的な処理が必要である。</p>
	<p>(ウ)合理的配慮の把握と支援方法の工夫。SC・外部機関との連携。教職員との共通理解推進</p>
	<p>特別支援委員会（スクールカウンセラー含む）を通じて支援を必要とする生徒の情報を共有し、生徒が安心して学校生活を過ごせるよう随時、委員会を開催した。特に発達障害に係わる内容だけではなく、児童虐待等の疑われる生徒や福祉の関わりが必要な生徒について、子ども家庭支援センター、児童相談所等と連携した。また、スクールカウンセラーによる研修会を実施した。スクールカウンセラーを積極的に活用することで、多様な生徒の「心と体」の悩みに対して迅速に対応し、校内の教育相談体制を活性化した。</p>
	<p>(エ)「TOKYOACTIVE PLAN for students」（令和3年3月策定）（総合的な子供の基礎体力向上方策（第4次推進計画））を参考にした生徒の体力向上への取組</p> <p>全学年において体力テストの意義や目的を理解させた上で、年間指導計画に位置付けて実施した。また、結果の分析・評価を行い「基礎体力の補強運動」等を通して体力・運動能力の向上を図った。</p>
<p>(オ)感染症等への対応</p> <p>感染症拡大防止対策として、コンディションレポートの活用、オンライン学習デーの実施、行事内容の工夫などを行った。また、十分な換気の実施（教室ドアの開放）、二酸化炭素濃度測定器と加湿器の設置を積極的に行い、生徒が安心して登校できるように心がけた。</p>	
⑦学校経営	<p>(ア)学校経営の充実</p>
	<p>服務事故防止研修の実施から、体罰・不適切な指導の撲滅、電子・紙情報等の個人情報管理を徹底した。また、「環境教育実践宣言校」として、環境保全意識の高揚を図り、SDGs 17の目標169のターゲットを意識して活動した。さらに、農場経営の長期計画に基づき、計画的に農場の近代化を図った。</p>
	<p>(イ)OJT・OffJT、自己研鑽、同窓会との連携強化</p>
	<p>学校は情報発信を積極的に行い、保護者や同窓会と緊密に連携することにより教育活動をより一層充実させた。また、学校運営連絡協議会が実施する学校評価アンケート及び生徒の授業評価アンケート、さらに保護者意見の結果から分析や検討を継続的に行い、意見や提言を真摯に受け止め学校経営に反映させた。</p>
	<p>(ウ)経営企画室・教員の連携、計画・効率的な予算執行、施設・設備の点検・共有化と整備・改修</p>
	<p>企画調整会議を基盤に据え、経営課題の解決と経営方針の徹底を図ることで迅速かつ組織的な対応力を高めた。また、各分掌はPDCA一覧表を作成して、学校経営計画の実現を図るための進行管理に活用した。一方、施設では、農業実習設備が老朽化していることから計画的な更新が必要である。また、予算執行においては、農業教育の特性もあり、支援センター執行率を高めることには難航している。新教育課程の実施に伴い、評価の在り方に関する検討を継続した。</p>
<p>(エ)計画・継続的研修、教職員のコンプライアンス意識の醸成、組織的 point 点検の実施</p> <p>管理職は、ライフ・ワーク・バランスを意識して業務の効率化、残業時間の削減等に取り組むとともに、何でも言い合える明るい職場風土の形成に努めた。</p>	

	<p>(オ)計画・継続的研修、教職員のコンプライアンス意識の醸成、組織的点検の実施</p> <p>月初めのクリーンデスクに努め、保有個人情報の管理徹底を図った。そのために、机の施錠と使用する施設などの施錠を徹底した。また、個人情報を含む資料については、各担当者に確認を行ったうえで書類などを手渡した。一部の課題は管理方法を改善した。</p> <p>入学選抜業務については、採点基準を明確に定め、採点においては複数による複数回の点検を順守した。また、中部学校経営支援センター支所と緊密に連携に行い、情報を共有化して学校経営の適正化と効率化を推進し、経営基盤を強化した。服務事故0を目指し、研修を2回実施するとともに教職員一人一人は意識向上に努めた。</p>
⑧ 地域 貢献 活動	<p>(ア)地域産業界・自治体・他校種との連携と充実</p> <p>点字図書館等との連携活動を通じて、生徒に社会の一員としての意識を醸成させた。</p>
	<p>(イ)地域行事への参加、ボランティア・町内装飾活動</p> <p>高齢者施設等の施設訪問やボランティア活動や奉仕的活動を通して、地域との交流を図り地域貢献への意識を高めた。</p>

(2) 重点目標と方策	
①学習指導	<p>(ア) 全ての教員は、ICT機器の特色を生かした教材と主体的・対話的で深い学びにより「分かる授業」を展開した。また、タブレットを活用した授業に取り組んだ。確かな学力（基礎基本、思考力・判断力・表現力、学ぶ意欲）を育成する授業を研究し、全教員が授業改善に努めた。</p>
	<p>(イ) 確かな学力（基礎基本、思考力・判断力・表現力、学ぶ意欲）を育成する授業を研究し、全教員が授業改善に努めた。生徒による授業評価を実施し、全教員が生徒による授業評価、小テスト、定期考査を活用し授業改善を図るとともに、改善策を生徒にフィードバックした。</p>
	<p>(ウ) TOKYO2020オリンピック・パラリンピックレガシーとしてGAPを学習した。また、HACCPの手法を取り入れた食品製造を実施した。</p>
	<p>(エ) 農業鑑定競技で全国大会に参加したが、優秀賞には届かなかった。</p>
	<p>(オ) 授業外の学習を前提とした授業を組み立て、自学自習の態度を育成した。中高校生がもつべき基礎知識の反復指導により、学力の定着と考える力・創造する力を育んだ。</p>
	<p>(カ) 全ての科目において、読む・聞く・書く等の言語活動を充実させた。課題研究発表会等において、プレゼンテーションの機会を与え、分かりやすく伝えるための発表方法と話し方を身に付けさせた。</p>
②生活指導	<p>(ア) あらゆる場面（登校時、定期考査時、始業・終業・修了式時、集会時、職員室入室時、廊下ですれ違い時等）で挨拶・マナー・身だしなみ指導を全教職員で行った。授業準備、チャイム着席、授業規律を全教職員で徹底するために、「チャイムで始まり」「チャイムで終わる」授業を実践した。</p>
	<p>(イ) 相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーション（言葉遣い・態度）ができるよう指導した。いじめ総合対策に基づき、いじめや迷惑行為の早期発見・解決に努め、安心できる環境を実現した。</p>
	<p>(ウ) 薬物、交通事故、特殊詐欺等についてセーフティ教室等を通じ自らを守る指導を行った。自転車事故・防止、薬物乱用防止、特殊詐欺の被害・加害防止等の健全・安全指導を実施して、事件・事故防止に努めた。ヘルメット着用推進強化期間を2回実施した。</p>
	<p>(エ) 学年・各分掌・専科の教員・SCの連携を図り、組織として課題解決に当たった。学校不適応や問題行動による中途退学者を出さない指導を徹底した。</p>
	<p>(オ) 生活指導部だより（夏・冬・春）等の定期発行し、基本的な生活習慣の確立につなげるとともに、定期考査前の部活動連絡やその他の情報を発信した。</p>
③進路指導	<p>(ア) 全教育活動において、キャリア教育を推進し、自己の在り方生き方を考えさせるとともに、望ましい勤労観・職業観を育んだ。基礎学力向上について学校全体で取り組み、3年生までは学力向上、4年生は生徒一人一人の進路希望に対応した組織的な指導を推進した。</p>
	<p>(イ) 1学年からの生徒一人一人の適性や希望に合わせた進路指導を徹底し、生徒全員の進路先が決定することを目指した。安易なフリーアルバイター希望者、進学希望者に対してライフプラン指導を徹底し、就職や大学・短大に目を向けさせ、自己の確かな将来を考えさせた。</p>
	<p>(ウ) 学習、特別活動の記録をデジタルデータとして蓄積した。（各学科の資格取得データの一元化）。</p>
	<p>(エ) 調査書、履歴書、推薦書の点検を確実に行った。（※学年⇒進路指導部⇒管理職の順）</p>
④特別活動 部活動	<p>(ア) 全教育活動（行事、HR、部活動等）をとおして、自主性や社会性、協調性を養う指導を行った。学年や全校集会の機会を積極的に活用し、集団行動・集会態度の基礎を身に付けさせた。</p>
	<p>(イ) 活動を充実させ、競技力を向上させ生徒に達成感や充実感を与えた。</p>
	<p>(ウ) 部長会、生徒会、委員会、農業クラブでは生徒の自立的運営部を目指した。</p>
	<p>(エ) 日本点字図書館との交流を推進した。</p>
⑤募集・ 広報活動	<p>(ア) 全教育活動の状況等を、HPやX及びインスタグラム、学校紹介、学校生産品をとおして情報発信をした。また、全教員による中学校訪問を3校以上行い、安定した応募者数を目指した。</p>
	<p>(イ) 農場部は、授業と関連付けた販売所の活用方法を検討し、売上増に結びつけた。</p>

	(ウ)	校内と農場の美化に努め、来校者に好印象を与えた。
⑥健康促進	(ア)	教育相談活動の充実と教育支援委員会（10回）、特別支援コーディネーター、スクールカウンセラーとの連携を深め、生徒が安心して学校生活できる環境づくりに努めた。
	(イ)	ゴミの分別・減量に努め環境教育を推進した。
	(ウ)	特別支援委員会、SCを活用し、特別な支援を必要とする生徒の情報を管理・活用し、生徒の指導・育成に生かした。
	(エ)	運動の重要性を伝える指導を学校全体で取り組み、運動の機会を増やして体力向上を推進した。
	(オ)	保健室をはじめ全教職員は、都のガイドラインを踏まえ組織的な対策を講じた。
⑦学校経営組織体制	(ア)	授業の質を高めるため、各教科の教員による研究授業を実施した。また、生徒による授業評価を実施して、それを活用した分析を実施した。
	(イ)	経営企画室の経営参画を推進し、経営参画型経営企画室の実現を図った。また、施設・設備の整備を促進するとともに、圃場の整理・整頓・整備に努め、専門教育の充実を図った。
	(ウ)	教職員の情報の共有化を図り、連携や連帯意識を醸成した。学校における働き方改革推進プランに基づき、ライフ・ワーク・バランス対策を推進した。
	(エ)	個人情報の管理体制をさらに強化し、事故防止に努めた。
	(オ)	安全で安心な生製品の製造・加工に取り組み、本校の信頼を高めた。
⑧地域貢献活動	(ア)	本校の専門教育の特色を、地域に広く提供し貢献活動を推進して本校への理解を高めた。生徒の体験学習、ボランティア活動等を積極的に推進した。
	(イ)	「人間と社会」、各学科の専門性を生かした、ボランティア・地域貢献活動を実践した。

2 今年度の数値目標

	項目	今年度の数値目標			
		今年度の数値目標	7年度（実績）	6年度（実績）	
(1)	学習活動	①	生徒の授業満足度（75%以上）	80%	67%
		②	原級留置者 各学年（0.2%以下）	0%	0%
		③	各種資格・検定合格者（生徒数以上）	9名	12名
(2)	生徒指導	①	1日1クラス当たりの遅刻者数(0.6人以下)	1.2名	1.0名
		②	中途退学者率（0.0%以下）	0%	15.7%
(3)	進路指導	①	卒業時進路決定率（95%以上）	100%	100%
(4)	募集対策	①	中学校訪問（教員1人3校以上）	103校	18校
		②	見学会、説明会来場者（20名以上）	45名	30名
(5)	教育活動の充実	①	保護者の学校満足度（80%以上）	100%	100%
		②	各種校内研修（8回以上）	6回	6回

3 次年度以降への課題と対応策

	重点項目	成果と課題	改善策
(1)	出口指導の強化	<p>【成果】・年度当初からの取組の充実により、4年生、進路決定率100%を達成した。</p> <p>・進路だよりを定期的に発行</p> <p>・二者面談、三者面談を充実させ、生徒の希望進路を的確に把握することができ、進路決定率を向上させた。</p> <p>【課題】・進路目標の早期醸成</p> <p>・就職希望者に関する指導体制の構築</p> <p>・進学希望者に関する指導体制の構築</p>	<p>進路指導部が主体となり、4学年担任と協力し、キャリア計画に沿って生徒自身の進路希望を、実現するための進路指導を行う。その際、生徒や保護者との面談などをとおして、進路希望を把握し、進路指導部のみならず全教職員による組織的な指導体制を確立する。受験日程や必要書類などについて保護者との情報共有を進め、確実な進路指導を推進する。進路ガイダンスを計画的に実施、進路活動の高揚を図る必要がある。</p>
(2)	部活動の活性化	<p>【成果】・スポーツ大会は、生徒が自主的に活動し、そして運営にも関わり、主体性を伸ばせることにつながった。</p> <p>・バドミントン部など、少人数ではあるが、活動は計画的に行うことができた。また、新たに文化系の部活動は文化部として発足した。</p> <p>【課題】・部員の確保</p> <p>・定通主催の大会への出場</p>	<p>部活動加入率を上げるため、新入生のみならず在校生への勧誘活動を活発化させる。校内へのポスター掲示のみならず、ホームページなどにおいて新入生や在校生、保護者や地域の中学校に向けて活動内容の情報発信を行う。また、部活動において、生徒の自主的、自発的な参加を促すことで、学習意欲の向上や責任感、連帯感の育成を行う。生徒数減少</p>

			傾向にあり、部員数を勘案し、部活の精選を行う。
(3)	学力向上の支援	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きめ細かな学習指導の充実 ・生徒の学力を丁寧に把握 ・ICTを取り入れた授業展開 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立を徹底 ・教科科目による取組の差 	全教職員での、①遅刻者を減少させるための指導の充実、②授業以外での教員による声掛けの実施、③個別指導の充実④教員間の情報共有と生徒理解について、組織的に実施する。
(4)	感染症対策	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出勤時の健康観察を実施 ・登校時の健康観察を実施 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭内での感染症対策 	校内において、定期的な校内消毒を継続するとともに正しい手洗いの指導を徹底することで、校外（特に家庭内）での行動にも変容を促す。
(5)	情報発信	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページにおいて、更新回数が200回に達した。また、新たにInstagramによる発信を強化し成果を上げた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員による学校ホームページの更新、情報発信の充実。 	入学希望者を増やすため、全教職員が学校ホームページを定期的に更新ができるように研修等を実施し、日々の活動を発信する。また、合同説明会や中学校訪問などに積極的に参加し、定時制についての情報発信を行う。